

2009



帰ってきてきた
あの味は、
ホンモノの
味がした。

近年、京の伝統野菜や加賀野菜をはじめとして、日本各地の伝統野菜・在来作物の発掘とその様々な活用が進行しています。そうした地域固有の作物は、商材として地域経済の活性化を刺激するだけではありません。青葉高氏が地方の在来種を「生きた文化財」と表現したように、ふだんの生活において地域の文化や歴史を身近にし、暮らしに豊かさや潤いをもたらしてくれる魅力も持っています。伝統野菜・在来作物の持つ本当の魅力とは何か、これからの望ましい活かし方とは何か、様々な具体事例を見聞きしつつ、その本質に迫ります。

フォーラムテーマ

「日本の伝統野菜・
在来作物の
これからを考える」

二〇〇九年十一月二十九日 日

時間 ● 午後一時三〇分—午後五時

会場 ● 山形大学農学部301教室「鶴岡市若葉町一三三」

開会のあいさつ……山形在来作物研究会会長(山形大学農学部准教授) 江頭宏昌

第一部 午後一時三十五分—午後三時三十五分

「伝統野菜・在来作物の可能性」

● 「在来・伝統野菜が魅せる

『民地の文化力』とその役割

—野菜は世界の文化遺産—

野菜文化史研究センター代表 久保功氏

● 「亀ノ尾」が子どもたちに語るもの」

庄内町立余目第四小学校教諭 山本典子氏

● 亀ノ尾、を育成した阿部亀治の子孫 阿部耕祐氏

● 「江戸東京・伝統野菜の底力」

江戸東京・伝統野菜研究会代表 大竹道茂氏

※第一部と第二部の間の休憩時間には、在来野菜の展示や試食を行います。

第二部 午後四時五分—午後五時

「伝統野菜・在来作物のこれから」

質疑応答&フリートーク

コーディネーター……平智(山形大学農学部教授)

主催 ● 山形在来作物研究会 共催 ● 山形大学

後援 ● 山形県、鶴岡市、酒田市、庄内町、JA全農山形、JA鶴岡、JA庄内たがわ、JA庄内みどり、スローフード山形、山形新聞・山形放送、庄内日報社、NHK山形放送局
お問い合わせ ● 在来作物研究会(山形大学農学部)事務局(山形大学農学部内)
電話 〇三三五二八二八三〇または、〇三三五二八二八五二まで